

令和元年6月28日現在

機関番号：32726

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03180

研究課題名（和文）一次資料調査と史的考察により諸学を融合する人文科学としての東アジア映画学の構築

研究課題名（英文）Construction of East Asian film study as humanities that integrates various studies by primary material research and historical consideration

研究代表者

飯利 忠男（佐藤忠男）（Iiri (Sato), Tadao）

日本映画大学・映画学部・名誉学長

研究者番号：90618638

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,600,000円

研究成果の概要（和文）：製作者・研究者・評論家・教育者等の共同研究により、アジア映画のアーカイブを持つ福岡市総合図書館における現地調査、インドネシアやカンボジアの小規模なフィルム・アーカイブの現状についての聞き取り調査による映画フィルム等の文化資源の現状に関する考察、俳優・李香蘭や戦後日米合作作品等に関する文献資料調査、東アジア映画における男性ヒーロー像の特徴を時代劇男性ヒーロー像との比較分析、韓国・中国・台湾とのドキュメンタリー映画制作ワークショップによる東アジアにおける合作作品の可能性の模索、中国との映画シナリオ作法を研究するワークショップ、東アジア映画に影響を与えた西洋の映画監督をめぐるシンポジウムを行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究者、創作者等、国内外の多様な人材がバランスよく配された共同研究を行うことで、口頭発表、論文発表、単行本刊行、ワークショップ、シンポジウムによる成果発表のほか、映画評論、エッセイなど、一般の国民に開かれた新聞・雑誌等のメディアにおいて研究進捗、発見を適宜発信した。研究代表者の長年の東アジア映画との関わりをインタビュー形式で映像として記録したほか、研究メンバーの一部は国内外の映画祭関係者であるため、本研究の成果を将来的には映画祭等の上映活動において広く社会に還元することが可能となった。

研究成果の概要（英文）：Through collaborative research by directors, producers, researchers, critics, educators, the following research was conducted by this project. A study on the current status of cultural resources by field surveys at Fukuoka City Public Library with archives of Asian films, and interviews on current status of small-scale film archives in Indonesia and Cambodia. Research on Ri Koran (Yamaguchi Yoshiko) and Japanese-American cooperative films in postwar. A comparative analysis of characteristics of male hero images in East Asian films with Japanese Jidaigeki male hero images. Exploring the possibility of collaborative works in East Asia through collaborative workshops on documentary films with Korea, China, and Taiwan. Workshops on film scenarios with China. And a symposium on Western film directors who influenced East Asian films.

研究分野：映画

キーワード：映画 東アジア アーカイブ 文化資源 映画史

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

従来、東アジア映画については個別研究はなされているものの、作品・作家・表象研究の成果と製作・配給・受容の制度史研究の成果との統合が進捗しなかったこと、製作者・研究者・評論家・教育者の経験が総合されなかったこと、「東アジア」という包括的な枠組による研究が諸学と比較して遅れていることなど、共同研究によらなければ解決できない課題を抱えていた。

映画における基礎的研究を問うならば、一次資料の確定が不十分なまま資料が失われつつあるのが現状である。映画草創期から20世紀、すなわち戦争、植民地、革命、冷戦と紛争、高度経済成長の時代に向け、映画はもっとも有力な大衆娯楽であると同時に政治的なプロパガンダの媒体でもあり、それ故にかえって、いったん政治的な条件が変化すると、前代の一次資料としての映画フィルムが粗雑に扱われ、廃棄され所在が不明になることがしばしばであった。

近年、アジア諸国でも国家事業としてフィルム・アーカイヴが創設され、中国、韓国、台湾、香港の東アジア地域に加え、小規模ながらタイ、インドネシア、カンボジア、モンゴル、フィリピン、マレーシア等にそれぞれフィルムのコレクションがある。ただし、所蔵作品のデータベースに館外からアクセスできるようにしている機関は、日本と韓国を除きアジア地区では稀である。フィルム・アーカイヴは国境を越えて資料を所蔵する場合も少なくない。たとえば日本の場合でいえば、国立映画アーカイヴを筆頭に、福岡市総合図書館、広島市映像文化ライブラリー、京都府京都文化博物館、川崎市市民ミュージアムなどがフィルム・アーカイヴを持っている。

本研究の代表者、佐藤忠男(飯利忠男)は、東アジア映画の発掘、紹介、評論活動の第一人者であり、『キネマと砲聲 日中映画前史』(岩波書店、2004年)、『中国映画の100年』(二玄社、2006年)など中国語、韓国語等に翻訳された著作も多く、国内外の映画研究者、映画教育者、映画製作者の間に幅広い人脈を持つ。また、研究分担者のメンバーは、学際的かつ国際的、多様で多彩であり、それぞれの専門領域における業績にはめざましいものがあり、東アジアの映画人、映画祭等上映企画、研究者、アーカイヴ、教育機関の間に、共同研究を成功させるにあたり欠くことのできない豊かな人脈を構築していたことが、本研究の背景である。

### 2. 研究の目的

東アジア映画研究はまず、映画フィルムの保存状況調査から始めなければならない。たとえば中国、韓国では、適切な保存倉庫を持ち、それらを見せてもらうことで研究が可能であるが、他の多くの国々の場合は、作品の調査は行われていても、保存の施設を欠き、フィルムが急速に失われていく状態にある。

幸い、日本では国立映画アーカイヴ、福岡市総合図書館等、フィルムの所蔵設備を持ち、世界中のフィルムの所蔵を行っており、アジアの映画作品がある程度保存されている。その中には、将来その作品の生産国においてフィルムが失われたとしても(その可能性は非常に高いのだが)日本には保存されていて後世に残るだろうとされているものが少なからず含まれている。本研究では、東アジアのフィルム・アーカイヴに関する調査を持続的に進め、民営の小規模なフィルム・アーカイヴ等の情報も収集する。

それと並行し、映画と映画人の国際交流(流通・流出・越境・亡命等を含む)の歴史的な研究、政治的な歴史から相対的に自立した表現の歴史としての東アジア映画の表象と批評の研究、20世紀東アジアの戦争・植民地・紛争・文化衝突の歴史的条件のなかで独自の進化をしたドキュメンタリー映画を研究することで、東アジア映画を人文学の総合的な研究対象として学際的国際的な共同研究を進めることを目的とする。

### 3. 研究の方法

「2. 研究の目的」に即して、本研究の柱ないし研究部会を以下のように構成した。

東アジア映画の基盤をなす映画フィルム等、歴史的文化資源の発掘と分析……研究代表者の佐藤忠男が、研究の総体を把握し、長年にわたる内外の研究者との交流と人脈を生かし、東アジアのフィルム・アーカイヴに関する調査を行った。

東アジア内外において国境を越えて活躍した映画人の人的交流、映画制作、教育、研究の軌跡の発掘と考察……研究分担者の川崎賢子は、批評と検閲の交錯する言説空間の力学の理論化につとめ、同分担者の細野辰興は映画監督である創作者の立場から、東アジア映画におけるイメージの文法について研究を行った。

映画アーカイヴの構築と研究・教育・創作を結びつけて実践を重ねている内外の映画人からの聞き取り調査、討論……ドキュメンタリー映画プロデューサーである同分担者の安岡卓治は、東アジアのドキュメンタリー映画を主要な研究、表現のテーマとして、中国、韓国、台湾のドキュメンタリー映画作家への聞き取り調査を行い、同分担者の荒井晴彦はシナリオ作家の立場から、主に中国の映画作家を招聘した国際ワークショップ、シンポジウムを行った。同分担者の石坂健治は、東アジア映画全般に関する研究史、言説史、上映史を担当し、東京国際映画祭アジア部門ディレクターの経験を生かし、シンポジウム等を運営し、同分担者の土田環は「西洋」と「東洋」の映画的表象を史的・美的に比較検討した。

東アジア映画の理論構築に資する文献資料調査と分析……『戦時日中映画交渉史』(岩波書店、2010年)の著作を持つ研究分担者の晏妮が中国語文化圏、日本による軍事占領地域における人材と文化資源の交流を分析対象とし、同分担者の志村三代子は戦時下占領下冷戦下における米

国のメディア制作と日本映画の歴史の変容を主たる研究課題とした。

#### 4. 研究成果

「3. 研究の方法」に即して、各年度において以下の成果があった。

##### (1) 2015年度

アジア映画祭企画上映と作品収集の実績を持つ福岡市総合図書館において、アーカイブ設立の関係者への聞き取り調査と東アジアの「古典」的映画の上映を行った。中国の「古典」的映画の上映、分析考察に加え、台湾、マレーシア、香港等、本拠地を転じつつ教育・研究・創作を続ける映画人の人的交流とその軌跡の発掘と考察を試みた。韓国、中国における海外調査、聞き取り、交流、意見交換に加え、インドネシア、カンボジアにおけるアーカイブ構築の経験者を講師として招聘し、研究会を開催した。後者については、聞き取り結果を成果物(冊子)として作成した。国内における文献資料調査に加え、戦前・戦中・戦後・GHQ占領期の資料について米国国文書館所蔵の占領関連・検閲関連文書の収集、米国西海岸 UCLA の日系会社関連資料の収集などを行った。

##### (2) 2016年度

東京国立近代美術館フィルムセンター(現、国立映画アーカイブ)において、俳優の李香蘭(山口淑子)が戦中・GHQ占領期に主演した映画作品の上映を行い、また連携研究者のフバートルの協力を得て、モンゴルで製作された初期の作品の試写会と検討のための研究会を開催した。東アジア映画について専門的な知識を有する日本の映画人への聞き取り調査のほか、韓国・中国・台湾・日本共同のドキュメンタリー映画制作プロジェクトの一環として各研究機関の専門家への聞き取り調査、オーストラリア、モンゴルの映画人および研究者への聞き取り調査を行った。また、北京電影学院から講師を招聘し、対談および聞き取り調査および意見交換を行い、この対談は一般に向けて公開された。李香蘭に関する戦中・GHQ占領期の関連資料収集と、国内外における文献資料調査を行った。

##### (3) 2017年度

ポスト満映の所在地である中国の鶴崗で調査を行ったほか、福岡で開催されたフィルム・アーカイブに関するワークショップ参加者への聞き取り調査を行った。2016年度に引き続き、李香蘭に関する資料の発掘と考察を行ったほか、俳優のブルース・リーをはじめとする東アジア映画における男性ヒーロー像についての研究を行った。東京国際映画祭や山形国際ドキュメンタリー映画祭等の場を利用して東アジア映画について専門的な知識を有する日本の映画人への聞き取り調査や、韓国・中国・台湾・日本共同のドキュメンタリー映画制作プロジェクトの一環として各研究機関の専門家への聞き取り調査を継続したほか、1950年代以降の映画作品を通じた「アジア」と「西欧」の交流に関する美学的考察という視点から、東アジア映画に多大な影響を与えたフランスの映画作家ジャン＝ピエール・メルヴィルをテーマにしたシンポジウムを開催した。李香蘭に関する資料収集と文献資料調査を継続したほか、日米合作映画の出演者へのインタビューを行った。

##### (4) 2018年度

研究代表者である佐藤忠男の長年の東アジア映画との関わりをインタビュー形式で映像としてまとめたほか、台北国立芸術大学において日本映画受容史の調査を行った。李香蘭に関する資料の発掘と考察の成果を単著として出版したほか、東アジア映画における男性ヒーロー像についての研究成果を公開対談によって発表した。韓国・中国・台湾・日本共同のドキュメンタリー映画制作プロジェクトの一環として各研究機関の専門家への聞き取り調査を継続し、その成果をドイツで開催された日本映画を特集する映画祭において、ドキュメンタリー映画の合作の可能性について発表し、一般誌向けの記事にまとめたほか、映画創作・研究・教育・アーカイブ構築を実践している中国の北京電影学院の映画人とともに、現代の日本および中国映画のシナリオ作法をテーマにワークショップを開催した。李香蘭についての研究を単著にまとめたほか、生誕100周年を迎え国内外の再評価がめざましい映画監督・川島雄三についての文献資料調査、関係者へのインタビューを行い、書籍にまとめた。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 26 件)

1. 川崎賢子、李香蘭研究の新視角 米国公文書館「山口淑子ファイル」の検証から、Intelligence、16巻、2016、27-28
2. 川崎賢子、もう一人の彼女 李香蘭 / 山口淑子、シャーリー・ヤマグチ、図書、806巻、2016、30-35
3. 川崎賢子、書評 中野正昭編『ステージ・ショウの時代』、日本演劇学会紀要、62巻、2016、123-128
4. 川崎賢子、映画へ / 映画から 尾崎翠の文学的転機、文学、17巻4号、2016、189-207
5. 川崎賢子、映画「支那の夜」に対する検閲の多元性 米国公文書館所蔵 IWG 文書を参照して、Intelligence、17巻、2017、124-134
6. 川崎賢子、研究動向 尾崎翠、昭和文学研究、74巻、2017、176-179
7. 志村三代子、北村匡平、篠田正浩監督に聞く 戦後日本映画における衣装について、都留文科大学研究紀要、84巻、2016、155-170

8. 志村三代子、北村匡平、映画女優・岩下志麻に聞く スター女優と衣装の関係、演劇映像、58巻、2017、23-34
9. 志村三代子、北村匡平、映画女優・司葉子に聞く スター女優と衣装の関係、都留文科大学研究紀要、85巻、2017、287-296
10. 川崎賢子、「私の驚」とロシアン・コネクション、図書、818巻、2017、24-29
11. 川崎賢子、上海租界の文化人とインテリジェンス、図書、823巻、2017、27-31
12. 川崎賢子、香港映画の「李香蘭」、図書、825巻、2017、29-35
13. 川崎賢子、映画「上海の女」小論 表象の転移と再編、Intelligence、18巻、2018、8-17
14. 志村三代子、仲地清氏に聴く 『戦場よ永遠に』(1960年)に出演して、都留文科大学研究所紀要、87巻、2018、355-364
15. 土田環、夢見る窓 21世紀以降のマルコ・ペロッキオ、特集カタログ『イタリア映画祭2017』、2017、66-71
16. 土田環、共振する身体 フレディ・M・ムーラー特集、山形国際ドキュメンタリー映画祭特集カタログ、2017年、1-84
17. 土田環、地域の上映環境の変遷 栃木県宇都宮市中心市街地の衰退と郊外の風景[映画館]宇都宮ヒカリ座、映画上映活動年鑑2017、2018、74-81
18. 晏妮、貫戦期における日中映画 歴史/表象の連続と断絶、Intelligence、18巻、2018、4-7
19. 石坂健治、ラヴ・ディアス監督インタビュー、Crosscut Asia、5巻、2018、6-9
20. 石坂健治、金網と鉄格子の狭間から、少年少女たちは一瞬の未来を夢見た、映画『メイド・イン・ホンコン』劇場用パンフレット、1巻、2018、6
21. 石坂健治、「大河のうた」から「ガンジスへ還る」へ バラナシと映画、映画『ガンジスへ還る』劇場用パンフレット、1巻、2018、8-9
22. 石坂健治、1500字で分かるインドネシア映画史、映画『マルリナの明日』劇場用パンフレット、1巻、2019、8-9
23. 石坂健治、われらがタヒミック~ブリコラージュとリバース・ショットをめぐる一考察、映画『500年の航海』劇場用パンフレット、1巻、2019、4-9
24. 志村三代子、映画記事のなかの欧米志向と理想の女性像、女学生とジェンダー 女性教養誌『紫色』を鏡として、1巻、2019、231-244
25. 志村三代子、気遣いの小津安二郎、小津安二郎大全、1巻、2019、118-121
26. 安岡卓治、アジアの大学共同プログラム、ビデオ SALON、2019年3月号、2019、94-97

〔学会発表〕(計 11 件)

- 川崎賢子、李香蘭研究の新視角 証言と資料の再読から、20世紀メディア研究所、2016
- 川崎賢子、「支那の夜」1940年代の複数の検閲、大妻女子大学草稿テキスト研究所、2016
- KAWASAKI Kenko, Breathing life into Japan's films: the power of imagination and expression in "Shin Godzilla," "Your Name," and "In This Corner of the World", MAJIT Live Interpreting Forum(The University of Queensland), 2017
- KAWASAKI Kenko, Girls Debate: in Aoi Sanmyaku, The Japanese Association of Australia, 2017
- 川崎賢子、李香蘭をめぐるインテリジェンス人脈、諜報研究会、2017
- SHIMURA Miyoko, Emperor and film criticisms of emperor system on Tragedy in Grama Island, Society for Cinema and Media Studies, 2018
- 土田環、公設民営方式による映画館運営の課題 富士市フォルツァ総曲輪の事例、文化経済学会、2017
- 晏妮、満映と華北電影、第七回中国電影史年会、2018
- 川崎賢子、宝塚と戦後日本のミュージカルパネル、日本演劇学会、2018
- 志村三代子、冷戦時代の「日米合作映画」 『東京暗黒街 竹の家』(1955)を中心に、20世紀メディア研究所、2018
- SHIMURA Miyoko, Acceptance of ballet in postwar Japan on Japanese films until the 1960s, International Academic Conference on Social Science, 2018

〔図書〕(計 13 件)

- 日本映画大学、創人舎、東アジア映画への眼差し 報告書「一次資料調査と史的考察により諸学を融合する人文科学としての東アジア映画学の構築」、2016、48
- 川崎賢子、鈴木貴宇、土屋礼子、前島志保、宗像和重ほか共編著、編集発行 早稲田大学現代政治経済研究所 20世紀メディア研究所、雑誌に見る占領期 福島鏗郎コレクションをひらく、2016、24
- 川崎賢子、谷川基、西原和海、沢田安史共編著、国書刊行会、定本夢野久作全集第一巻、2016、554
- 佐藤忠男、桜雲社、恋愛映画小史、2017、308
- 夢野久作、西原和海、川崎賢子、沢田安史、谷口基、国書刊行会、定本 夢野久作全集 第2巻、2017、466

夢野久作、西原和海、川崎賢子、沢田安史、谷口基、国書刊行会、定本 夢野久作全集 第3巻、2017、569  
北村匡平、志村三代子、水声社、リメイク映画の創造力、2017、312  
小松和彦、志村三代子、せりか書房、進化する妖怪文化研究、2017、499  
北野武、森昌行、土田環、フィルムアート社、映画監督 北野武、2017、406  
安藤紘平、岡室美奈子、是枝裕和、谷昌親、土田環、長谷正人、元村直樹、フィルムアート社、映画の言葉を聞く、2018、472  
石坂健治編著、論創社、躍動する東南アジア映画～多文化・越境・連帯～、2019、192  
川崎賢子、岩波書店、もう一人の彼女 李香蘭ノ山口淑子ノシャーリー・ヤマグチ、2019、272  
川崎公平、北村匡平、志村三代子、水声社、川島雄三は二度生まれる、2018、352

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
20世紀メディア研究所(早稲田大学現代政治経済研究所)  
<http://www.waseda.jp/prj-m20th/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：荒井 晴彦  
ローマ字氏名：Arai Haruhiko  
所属研究機関名：日本映画大学  
部局名：映画学部  
職名：特任教授  
研究者番号(8桁)：00618621  
研究分担者氏名：晏 妮  
ローマ字氏名：Yan Ni  
所属研究機関名：日本映画大学  
部局名：映画学部  
職名：特任教授  
研究者番号(8桁)：70509140  
研究分担者氏名：石坂 健治  
ローマ字氏名：Ishizaka Kenji  
所属研究機関名：日本映画大学

部局名：映画学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 40631255

研究分担者氏名：川崎 賢子(志賀 賢子)

ローマ字氏名：Kawasaki(Shiga) Kenko

所属研究機関名：立教大学

部局名：文学部

職名：特任教授

研究者番号(8桁): 40628046

研究分担者氏名：志村 三代子

ローマ字氏名：Shimura Miyoko

所属研究機関名：都留文科大学

部局名：文学部

職名：准教授

研究者番号(8桁): 20409733

研究分担者氏名：土田 環

ローマ字氏名：Tsuchida Tamaki

所属研究機関名：早稲田大学

部局名：理工学術院

職名：講師

研究者番号(8桁): 70573658

研究分担者氏名：細野 辰興

ローマ字氏名：Hosono Tatsuoki

所属研究機関名：日本映画大学

部局名：映画学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 10631260

研究分担者氏名：安岡 卓治

ローマ字氏名：Yasuoka Takaharu

所属研究機関名：日本映画大学

部局名：映画学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 70631258

## (2)研究協力者

研究協力者氏名：蔡宜静

ローマ字氏名：Tsai YiChing

研究協力者氏名：フフバートル

ローマ字氏名：Huhbator

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。